



価値あるソリューションの創出を通じて、 健康産業の発展に貢献します。

代表取締役社長 巖 浩

1962年生まれ、中国江蘇省出身。1979年、天津大学工学部入学。1981年、中国国費留学生として山梨大学、東京大学（大学院博士課程）で医学統計を専攻し、臨床試験に関わる研究・実務に従事。

1991年5月にイーピーエス株式会社の前身であるエプス東京を設立。創立10周年にあたる2001年にJASDAQ市場に株式を上場、2006年に東証1部に上場。

Q1 当期の総括をお聞かせください。

当第2四半期連結累計期間（以下、当期）における日本の経済は、景気の先行きが依然予断を許さない状況にありましたが、当社が属するCRO業界、SMO業界は堅調に成長しました。CSO業界は海外からの大手競合の参入もあり競争が激化していますが、市場は堅調に拡大しています。医薬・医療系IT業界は、CRO・SMO業界の成長を追い風にして堅調に推移しました。

こうしたなか、当期の連結業績は売上高、営業利益、経常利益ともに期初予想を上回り、売上高は17,342百万円、営業利益は2,750百万円、経常利益は2,631百万円、四半期純利益は1,182百万円と、前年同期比でも大きく伸長しました。

Q2 中国事業の進捗について教えてください。

中国事業は、BPO事業、ヘルスケア事業、医薬品事業を3本柱としています。2012年2月には、蘇州に中国事業の本拠地となる益新ビルを建設し、当期は3月からBPOサービスの提供を開始しました。BPO事業では臨



益新ビル

床試験データのみにとどまらず、広くヘルスケア分野のデータ処理を業務範囲としています。今後は、新しいIT技術を含めてさまざまなツールを導入することで業務効率をさらに高めていきます。



BPOサービスを提供

Q3 通期の展望をお聞かせください。

CRO事業については、モニタリング業務は順調に推移しており、売上高で業界2位に位置しています。モニタリングのアウトソーシングニーズは増加しており、供給不足の状況が続いているため、今後も引き続き人材育成を推進し、お客様のニーズに応えていくことで売上高業界トップを目指します。

データマネジメント業務は、売上高で業界トップに位置しています。3年前のピーク時に比べると2010年、

2011年は若干売上が落ち込んだものの、2012年は改善の傾向が見られます。今後は構造改革も視野に入れながら、コストパフォーマンスの向上を目指して、中国でのBPO機能を活用するなどさまざまな取り組み進めていきます。

SMO事業は堅調に伸びており、売上高で業界3位に位置しています。今後も業容拡大に向けて人材確保を進め、シェア拡大を目指していきます。

CSO事業の主力部門は、コールセンター業務とMR業務です。コールセンター業務は順調に伸びていますが、MR業務は第3四半期以降、製薬業界でMRの営業活動にかかわる自主規制が強化されることに伴って派遣需要が停滞すると予想され、その影響を受ける見込みです。

海外事業は、多国間臨床試験への対応を加速するため体制を強化しています。2011年10月、海外のCRO・SMO事業を統括するグローバルリサーチカンパニー（GRC）を新設し、多国間臨床試験を統一的に進めるために、機能別の組織体制を構築しました。今後は欧米市場でも事業を展開し、提携・M&Aによるグローバル展開を加速していきます。

こうした各事業での取り組みを推進することで、通期では連結で売上高35,070百万円、営業利益4,824百万円、経常利益4,795百万円、当期純利益2,255百万円を見込んでいます。